

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田 晴久

環境技術委員長 坂本 忠彦

両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第340回)

日時 平成29年10月19日(木) 午後1時半～4時

場所 参議院議員会館 1階 102会議室

千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「102会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

国立科学博物館「深海2017」の見学報告

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、『環境技術関連ニュース NO.163』

解説 中島稔科学技術部会長

3、放射性廃棄物の分離・資源化について

解説 理化学研究所光量子工学研究領域 緑川克美領域長

報告 去る9月17日の環境技術委員会は、上野の国立科学博物館にて、特別展「深海2017」の見学会を行いました。

去る7月20日開催の第338回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。東京は昨日梅雨明け宣言が出たが、福岡・大分をはじめ、短時間での記録的豪雨によって大きな被害が出た。これは地球温暖化も原因の一つではないだろうか。海洋がCO2を吸収すれば、少しは温暖化を食い止める

ことが期待できる。本日のレクではこうした点もうかがいたい。

次に、清原淳平専務理事より、当日の講師・気象庁地球環境・海洋部の吉田隆海洋気象課長の経歴紹介がありました。次に、吉田課長より、「気象庁による海洋環境の監視」について解説がありました。気象庁では2隻の海洋気象観測船を展開している。この観測結果によって、日本周辺海域は、この100年で海表面の水温が1.09℃上昇しており、世界平均よりかなり高い水準であることが分かった。海水内部に二酸化炭素の蓄積が進んでいることも分かっている。海水が酸性化すると、サンゴの白化、甲殻類、貝類、魚類の生態系に悪影響を及ぼす一方、大気中へのCO₂の放出を緩和する役割を果たしている。また、日本全国76カ所で潮位観測を実施している。地球規模では温暖化による海水の熱膨張と氷河の損失によって海水面が上昇している一方、日本沿岸の海面水位は単調な上昇傾向がない。これは、世界平均と日本沿岸ではデータの抽出方法が異なっていることが原因である。日本沿岸では、地震による影響も大きい。例えば、東日本大震災の前後で、東日本と西日本では上昇傾向が違う。また、流氷も減少していることが分かっている。これらの変化のすべてが、大気中のCO₂濃度の上昇によって生じる変化と符合している。国連の報告でも、人類による影響が温暖化の主たる原因であった可能性が高いと評価している。気象庁としては、今後も海洋監視の実施を着実に実施し、海水温の変化やCO₂濃度、海洋酸性化の実態を明らかにすることで、気候変動の課題に取り組んでいく。

中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No. 162』の解説がありました。今回は、○CO₂を回収し、販売しようとする試み。○海面上昇は過去20年で加速、グリーンランドの融解が原因か。○過去最大級の氷山が南極大陸から分離。○石炭火力発電にアンモニアを混焼し、CO₂削減を狙う実証実験。○塩で土壌のセシウムを除去する研究。○人工光合成によって発電給湯を行う住宅の販売計画。○食品廃棄物を電力にするバイオガス発電所が秋田で完成。○ネオジム磁石に含まれるレアアースを銅の精錬技術を活かして回収。コスト8割減。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、10月19日（木）の環境技術委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

（その際の当日会費は三千円となります。）

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp